



新 生

第 48 巻 号
春 新 生 会 広 報

わがたましひは黙してたゞ神をまつ わがすくひは神よりいづるなり 神こそはわ
が磐わがすくひなれ またわが高き櫓にしあれば我いたくは動かされじ

—詩篇第62篇1～2節—

Truly my soul waiteth upon God: from him cometh my salvation.

He only is my rock and my salvation; he is my defence; I shall not be greatly moved.

—PSALM62 1-2—

時を見分け 使命を生きる

すずきいづむ

榛名荘・新生会の歩みを顧みると、榛名の里に蒔かれた医療・福祉・教育の種は、今から九〇年前一九三五（昭和一〇）年に原正男師をはじめ同志らによって組織された療養指導・結核予防運動団体「新生会」を原流としています。月刊誌『新生』を発刊し、広く啓蒙活動を展開。一九三八（昭和一三）年には、「結核療養所」を開所。やがて財団法人「榛名荘病院」へと発展してきました。戦後一九四九（昭和二四）年に、霊父木村兵三神父の指導のもとに誕生した看護修女会「神愛修女会」は、結核患者の看護に従事し、修女たちの献身的奉仕の業によって多くの回復者を社会復帰させる使命を果たしました。

一九五七（昭和三二）年には社会福祉法人「新生会」が姉妹事業として発足し、旧施設を利用した生活保護法に基く最初の老人ホーム「恵泉園」（定員三〇名）が開園。以来、外野席応援団はじめ多くの方々に支えられ多種の高齢者福祉諸事業を展開し今日に至っています。

私は昨年悪性リンパ腫のため約五ヶ月間の入院治療を終え、担当医から寛解を告げられてから半年が過ぎました。「寛解」を英語で Remission と言います。それは再び使命 (Mission) に就くことを意味しています。病を癒やされた恵みに感謝するとともに不思議な召命を感じています。

榛名荘・新生会の創業の精神に込められた諸先達の祈りと業を継承し、託された使命を心に銘記して歩みたいと思います。

最後に、精神軸を喪失した混乱する時代にあつて「ラインホールド・ニーバーの祈り」をもって結びます。

神よ、変えることのできるものについて、それを変えただけの勇気をわれらに与えたまえ。

変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、変えることのできるものと、変えることのできないものを、識別する知恵を与えたまえ。

鈴木育三

一九四三年、埼玉県大宮市生まれ
立教大学大学院応用社会学修了
後、聖公会神学院講師を経て、
一九八四年新生会入職。
二〇〇七年日本聖公会執事接手、
現在新生会常務理事



心のかわき

苦しい日もありましよう

しかし苦しい人が

あなただけではありません

さびしい日もありましよう

しかしさびしい人が

あなただけではありません

苦しきのいやしい

さびしきのなぐさめあい

そこに心の花がさく

なさけの花のしたたりが

心かわの渴きをいやしてくれ

後藤静香著

「天よりの声」より



原 慶子

天上に生きること・地上に生きること

エリザベツ近藤道子修女が天に召されたのは今年（二〇二五年）一月二六日（原慶子の誕生日）早朝のことでした。神愛修女会は一九六七年に和歌山・上富田町に移転をし、幼稚園や特養ホームを運営していましたが、二〇〇六年、濱野修女が主のみ元に旅立ち、近藤修女は宗教法人神愛修女会を解散することを決断しました。そして二〇二五年三月、社会福祉法人神愛会も他の法人に引き渡されることになりました。私はこれを機に、社会福祉事業の社会的使命について考えています。神愛修女会は、神からの召命を受け、神に仕えました。活動修道会として老人福祉と幼児教育の仕事を社会的使命として実践したのです。

個々の人間の生き方も様々な事業の在り方も今や市場原理主義経済システムを無視しては、生活もできないし、事業経営もやっていくことはできません。人間性として、理性・霊性・欲求・欲望があります。召命も使命感も、理性（悟性）と霊性から育まれていくものです。欲求・

欲望は「我々を有利にするものと結びつけ、快いもの、有益なもの、安寧、財産、利益を求めさせる感情」（アカデミー辞典）のことです。個々の人間性も、事業も、理性、霊性、欲望のバランスを取らないと社会生活も事業も健全（精神性と物理性が調和していること）に成長することはできません。昨今、二一世紀初頭においては、欲望のみの人間、事業が、物を神と拝み、勝ち誇っているように思えます。その頹廢の在り様は、経済格差、弱肉強食、そして血なまぐさい戦争となつて、人類を不幸にしています。

神愛修女会は霊性をもった人たちの集まりであり、老人福祉・幼児教育の根幹にはキリスト教信仰がありました。イエスの十字架上の死と復活・神の愛を基として事業を行いました。社会的事業としては終焉しましたが、彼らの播いた種は「永遠」です。地球社会がどんなに物質至上主義になつても、霊性に生きる人間も事業も「生命の輝き」、闇の中に光り続けるでしょう。

私はそして新生会も神愛修女会の「聖主のみ名によって始められた働きを主のみ名によって美しく」成長させて行きます。近藤修女、私たちの働きを見守ってね。アーメン

学生時代のボランティア

ボランティアの本質とは一体何か。僕がこのことを考え始めたのは大学生の頃だ。同志社大学の社会福祉学専攻に在籍していて、学生時代の四年間はボランティア漬けの毎日だった。授業の出席もそこそこ。いまの学生に聞かせたら啞然とするに違いない。ちなみに原慶子理事長は同じ学科の大先輩にあたる。もちろん大学時代は知る由もないが。

僕がボランティアのサークルに入ったのは、新入生歓迎イベントのときに先輩がやさしく勧誘してくれたからだ。ボランティアについてとくに強い関心を持っていたわけではない。今考えればノンポリそのもの。そんな僕がボランティア活動としてサポートしたのは、森永ヒ素ミルク事件の被害者で障害の後遺症を負った若者だった。一九五五年に起きた粉ミルクへのヒ素混入事件は、その一四年目に在宅医療の医師らの新たな「発見」により裁判闘争となる。世に言う「森永方式」という和解により、被害者を森永が終生支援するため「恒久救済機関ひかり協会」を設立。僕はその被害者の訪問教育を四年間担当した。

Kくんと交流と実践

活動グループの対象者は四人で、そのうちの一人の対象者Kくんを三

人で担当した。それまで僕は身体的知的障害のある人たちは知っていたが、Kくんは見た目に障害があるようには思えない。普通。の若者だった。喜怒哀楽の表情はあまり無いが、会話も違和感なく挨拶や世間話が出てきた。先輩が「それでは勉強をしよう」と取り出したのは、『さんすうだいすき』という水道方式の子ども向けのテキストだった。Kくんは2+3=5がわからないのだ。普通に小学校・中学校を卒業している。稼業の小さなお店も手伝っている。そ

保障した取り組みだ。そのなかで、数の意味や身体の使い方、感情表現などを学んでもらうという実践。Kくんの表情も少しずつ豊かになったと思う。

僕が四年生の頃に、障害のある方の就労の場づくりとして全国的な運動となっていた共同作業所が京都にもできた。Kくんもそこに通うことになり、自宅から作業所まで初めての電車通勤にチャレンジした。仲間の連係プレーで通勤全体の見守りから少しずつ見守りの区間を減らして

論壇

ボランティア論 自由と創造性の確保のために

新生会評議員選任委員
元高崎健康福祉大学教授

金井 敏

れなのに…。

僕はケース会議でKくんの目標を三つ立てた。

- ① 簡単な足し算の獲得
- ② 目と手の協応による空間関係の把握とボディイメージの習得
- ③ 豊かな感情表現の表出

この三点について学生ならではの視点やアプローチで訪問教育を行っていた。学生ならではの仲間の力である。Kくんを屋外に連れ出し、ボーリングしたり、喫茶店に行ったり、公園で遊んだりという集団を

自分で通えるようサポートした。今言うジョブコーチである。そんな彼が、僕が卒業する頃には声を立てて笑えるようになった。仲間の大切さを学んだ四年間だった。

卒業論文に込めた思い

さて、そんな僕が書いた卒業論文が「ボランティア論 自由と創造性の確保のために」である。当時はボランティアという存在がようやく世の中に出始めた時代である。というより、政府の戦略として「日本型福

祉社会」が構想され、自助を基本として公的施策を補う存在としてのボランティアが政策誘導されていた。ボランティアに関する書籍も出版され、活動の分野や内容、その意義などが紹介された。しかし、なぜボランティアが必要なのか、その対象となる社会的課題は何かを論ずることなく、勧誘する政策は納得できなかった。僕自身が参加したボランティアは、企業が引き起こし政府が見逃していた事件の対象者に寄り添った活動だった。振り返ると僕のボランティア活動の動機や原点は、その問題意識であり、社会の歪みが障害者を生み出しているという怒りだった。

かくして僕の卒業論文の核心は、「ボランティアは単純に活動すればボランティアになれるのではなく、課題やニーズとの関わりを通して学びボランティアになっていく、ということに本質がある」というものになった。自由と創造性があったこそ、ボランティアは成り立つと考えた。そしてこの考えは今でも変わっていない。中間支援組織にボランティアセンターがある。その役割というのは、この本質に関わる触媒として機能することにあると思う。青臭いが、僕の原点はここにあることを忘れずにいたいと思う。

特集

地の塩・世の光として、《神の愛》に根ざす協働体であること

人間の歴史と神の摂理

原 慶子

歴史的転換期に
生きる私たち

二一世紀になって二五年が経つ。二〇世紀から二一世紀に変わろうとしている時、新しい世紀に良い意味での期待をした人々は多かったと思います。その期待は直ぐに裏切られました。二〇〇一年九月十一日、アメリカにおける同時多発テロ(9・11)勃発を契機に、アメリカとアラブ諸国との利権をめぐる争いが激化し、世界中にアメリカ力発、経済のグローバリズムが拡大し、同時に地球温暖化による自然環境の悪化など、地球環境も人類もマネタリズムの餌食になって行きました。更に二〇一一年三月十一日、福島において、東日本大震災にともなう原発の水素爆発事故が起こり(3・11)、世界中、核の脅威が現実的に人々の生活に迫ってきています。その後、多くの自然災害、弱い国に対する強い国の暴力とも言える血腥い戦争が世界のあちこちで日常茶飯となり、人類も自然も、生命の輝き(光)からはほど遠い存在となりました。その様な最悪な生活環境の渦中で突然現れたのが、新型

コロナウイルスパンデミックです。「歴史の女神は悪戯が好きである。不思議なことに歴史的大転換期の『危機の時代』には、必ずといってよいほど、パンデミックを重ね書きするように演出する。」(神野直彦「財政と民主主義」)「四世紀半ばの「黒死病・ペスト」に始まり、二〇世紀初頭の「スペイン風」などのパンデミック。二〇〇二年には、コロナウイルスによるSARSが発生する。二〇一二年にはコロナウイルスによるMERSが発生する。二〇一三年にエボラ出血熱、二〇一四年にはジカウイルス感染症が発生している。」(同上)二一世紀に入ってから次々と感染症が発生し「二〇二〇年に新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなって流行したことは、予想だにできなかった出来事ではなく、生起して当然の出来事だったのである。」神野直彦によれば、コロナパンデミックは歴史の女神の悪戯と言っています。私、私は、新自由主義(強欲資本主義)経済(イデオロギー)がもたらした必然的結果だと思っています。従って人々(人類)は、一人一人がこの事実を客観的、根源的に認識し、精神までも搾取されないように自覚しなければいけません。

パンデミックと金融権力

日本では一九九〇年代以降、アメリカの圧力でグローバル経済、新自由主義を強化してゆきました。国鉄やNTTなどの民営化、資本の規制緩和で、資本主義における利潤拡大、債権の証券化により、金融資本主義の金融権力が経済システムの根幹となりました。小泉内閣は、聖域なき構造改革の一環として「三位一体改革」(国庫補助金の縮減・国から地方への税源移譲・地方交付税の減額)を断行し、小さな政府への転換を図りました。「すなわち日本では、新自由主義の『政府縮小―市場拡大』戦略が強力に進められ、財政縮小の焦点も社会保障関係費の圧縮に絞られていた。」(同上)二〇〇〇年四月から施行された介護保険法は、まさに医療、保健、社会福祉を政府管轄から市場拡大のために営利ビジネスシステムの傘下に置いたので。多くの社会福祉法人は「経営の合理化」の名の元に、金融権力の支配下に置かれることになりました。政府管轄から金融権力管轄になったのです。故に福祉サービスを下下させてコスト削減(例えば、常勤から非常勤を多くするなど)を図り表向きは黒字経営を重視するようになりました。コロナパンデミックにより、巧妙な金融権力政策により、経営破綻に追い込まれたのは、弱小企業ばかりではなく、社会福祉法人にも及びました。良い仕事をしても、金融資本主義会計システムを遵守する余り、本来の根源的な事業目標を見失い(ないがしろにし)、経営放棄をし、金融権力に買収されてしまうのです。

中間搾取と金融システム

一九九八年、私が理事長に就任した時、みずほ総研に経営診断を依頼しました。その時のアドバイスは、事務部門と調理(給食)部門のアウトソーシングでした。勿論、私はその提案には乗りませんでした。介護保険法施行後も今まで通り全てを創業の精神と「文化としての福祉の創造」を理念として、社会福祉事業の経営を行ってきました。コロナパンデミックになってから担い手不足(特にケアワーカー)が社会問題になっていきます。小泉政権以来、人材派遣会社や人材紹介会社が増えてきました。前者は派遣先の人件費を肩代わりして人材を派遣するといふもの、後者は人材を紹介し、紹介料として年収の二〇から三〇パーセントを徴収するといふものがあります。いずれも直営あるいは直接に雇用していれば支払う必要のない費用です。アウトソーシングも派遣・紹介会社も、担い手不足を増長させ、派遣先と派遣社員から「中間搾取」をしているのです。資本家が、労働者を商品として、労働者の労働成果から搾取した利潤が資本増加になるのです。その資本を買収するのが、新自由主義経済における銀行の仕事であり、それが金融資本主義なのです。このシステムを変革しない限り、不平等、経済格差社会は、永遠になくならないでしょう。今私たちがやらねばならないことは、金融権力とその制度のマネタリズムに惑わされず、人間本位の生活経済を豊かにする方法を考え出すことではないでしょうか。



エリザベツ近藤道子修女 逝去記念式

二〇二五年三月十五日

榛名聖公会にて

教話：社会福祉法人新生会

理事長 原 慶子



今年に入ってから、近藤修女の容態が少し悪くなりました。宮崎修女からの連絡に、その時がいつ来るのかと思っておりました。そして、亡くなる二日前に、なんとなく電話をすると、ちょうど宮崎修女が近藤修女のベッドそばにいらした時で、近藤修女とお話すると、きちんとお返事をして下さり、笑い声まで聞こえたりと、これはすごいと思えました。その二日後、一月二六日の早朝、近藤修女が四時頃、天に召された旨の電話がありました。一月二六日は私の誕生日です。なんとという偶然だろ

うと思えました。翌日一月二七日の早朝、神愛修女会へ向かいました。現地に到着すると通夜式までの間、近藤修女のそばで顔を見ながら心と心の会話をしました。眠っているかのような、話しかけると返事をしそ

うなお顔でした。今日は、近藤修女との出会いから始まり、神愛修女会のこと、木村兵三神父のこと、濱名霊母のこと、その歴史をお話したいと思います。

まずは、神愛修女会がなぜできたかということ。実を言いますと私の父、原正男は重度の結核で死を宣告されながら、療養生活をしておりました。しかし、ある日、使命感や神様の声の中で療養所を作りなさいというひらめきを受けます。結局、父は病気が十分に良くなっていない中で、結婚し妻の協力を得ながら、一九三八年に結核保養所を立ち上げました。父と母は結婚後、群馬県桐生市で生活しておりましたが、そこで、母は外人の神父より、父は日本人の神父にという希望の中、木村兵三神父から受洗しました。当時、日本は戦争に向かう時期で、結核保養所をスタートしたものの、働き手がない状況でした。そんな中、木村兵三神父が力になって下さり、活動が始まり、教会もできました。お祈

りだけではなく、看護や保育の資格を持った修女を養成する聖マリヤ院神愛修道会も設立され、そこで木村兵三神父と深田霊母との出会いがあり、ダイナミックな動きとなり、テレジア会の方々も協力して下さることになりました。人と人との出会いというのは本当に不思議で、神様に導かれるように、良き出会いの中で、良い働きがなされていくことを実感します。

戦争が終わっても大変な状況は続き、そのような中で、榛名荘病院の総婦長として弱き結核患者のために、身をもって看護に当たって下さったのが近藤修女でした。本当にユーモアたっぷり、独特のキャラクターの中、修女の中で最も俗界の人との付き合いが多かったと思います。今日のこの記念式にも、榛名荘病院で看護婦として働く中で、近藤修女から教えを受けた方々が参列して下さいます。近藤修女の笑顔、一言から励ましを得た人は沢山いらっしやいます。少女のようでありながら心の癒しであり励ましの人であったことを今でも振り返って思います。

して現地にて修女会の働きを待っている方がいらっしやったことがあります。その望みに応える形で、社会福祉法人神愛会特別養護老人ホーム愛の園ができました。そこで、修女の皆さんはそれぞれの役割を背負って、一生懸命働きました。最終的には深田霊母の後を継いだ濱名霊母が理事長として園長として献身しました。そして、神愛会は新型コロナウイルスの直撃、新自由主義、金銭至上主義といった社会構造の中で煽りを受け、この三月で他の法人に譲られることになりました。本当に寂しいことです。神様の御心ではと思いつつも、心の整理ができないのであります。

近藤修女が天に召された今、宮崎修女は一人になり、本当に大変な状況ですが、ある程度仕事が片付いたら、新生会の老人ホームにいらっしやることを決めています。

今、世界中が新自由主義経済システムによる弱肉強食の状態となつてしまっている中、私が思い浮かべるのは聖書にある『蛇のように賢く鳩のように素直に』ということ。今後はより一層、神様の愛を心に、魂の中に一杯にして、神愛修女会の続けてきた志と信仰を、新生会で花開かせていきたいと思っております。

カーシェアステーション設置

群馬県社会福祉協議会と群馬ダイハツ自動車㈱との包括連携協定に基づきカーシェア事業の試験運用として、新生会・法人本部前に約三カ月間、タントスローパー（福祉車両）が配置されることになりました。



これは『トヨタシェア』として、登録した会員間でクルマを共同使用する「カーシェアリングサービス」です。利用方法は専用アプリを使用。二四時間いつでも予約から乗り出し・返却・決済までを行うことができ、給油や鍵の返却など煩わしい手続きは不要です。車いすでそのまま乗り込める福祉車両が一五分（二二〇円）使用可能で、面会に来たご家族とお出かけ利用や、在宅サービスの利用者送迎など、多岐にわたる利用が見込めます。皆さま是非ご活用ください。



あさがや偽妹登場!?

三月に雪!?などと驚いていたら、週末は二度という激しい季節の移り変わりを感じる今日この頃、桜が丘芸術ホールでは「歌で綴る春夏秋冬」と題してボーカル、ギター、ピアノによるライブが開催されました。

アンプやスピーカーなどいつもの違った機材満載のステージに登場したのは、ピンクの衣装にポップに眼鏡というTVでおなじみ阿佐ヶ谷姉妹!ではなく、あさがや偽妹!偽?ニセモノ?聞けば縁もゆかりもないようですが、ギターを弾きながら歌う様子は目を閉じていると「さだまさし」のように聞こえ、昭和百年にふさわしい、唱歌やフォークソング等、数々の名曲をご披露いただきました。コロナ前までは銀座でも活躍だったジャズピアノストの浅岡敦子さんのステージも素晴らしく、バラエティに富んだライブは、「花」などを一緒に歌って大盛り上がり。一足早く桜が丘には大輪の歌の花が咲き誇りました。



二〇二五年度 新任職員研修会

三月二十五日（火）～三月二十七日（木）にかけて「二〇二五年度新任職員研修会」が開催されました。

今回の研修には、四月一日就任の方と二〇二四年度中に就任された方を合わせて、計一〇名の方が参加しました。最初は緊張した面持ちの皆さんでしたが、時間が経つにつれ同期同士打ち解けて、とても明るく、笑顔溢れる研修となりました。

座学での講義では高齢者の医学や介護保険について、ケアする時に大切にしたいことなど、講師の言葉に皆さん熱心に耳を傾け、各施設に分かれてのワークでは普段とは異なる施設でワークをした方もおり、多くの学びや気づきを得ていただき、充実した三日間となりました。



ホームページリニューアル

この度、新生会のホームページ（以下HP）がリニューアルされました。これまででもいろいろな情報発信を行ってききましたが、四月一日からより見やすく、よりフレッシュな情報発信を行っていきます。各施設からのご案内や各種イベント情報、また採用情報など新生会SNSと併せて進めていきます。徐々に更新をしていきますので、毎日アクセスしてくださいね。

インターネットで『新生会』と検索していただくと、すぐに見つかるはずです。HPをご覧になる方に分かりやすく、丁寧に新生会について知っていただけるように工夫をしていきますのでどうぞよろしくお願います。



スマートフォンからも見やすくなりました!



HP QR コード

ホームアクト

介護付有料老人ホーム
新生の園

鬼退治の巻

二月五日、平和な新生の園に二体の鬼が現れました。遠路遙々と地獄から来ていただいたわけですが、何とか全員で協力して赤鬼と青鬼を追い払わなければなりません。緊迫を打ち破るように現れた鬼たちは、会場を縦横無尽に駆け回りました。「鬼はく外！福はく内！」と盛大な掛け声とともに、居住者の皆様が豆を投げる！投げる！両手に豆を握りしめて鬼に立ち向かいました。



胸板の鬼退散！

白熱する一方で、鬼が抱えた箱の中にそっと豆を置きに行く居住者の方の姿がとても微笑ましく映りました。「動き回って疲れないかしら」と労ってくださる方もいらっしゃいました。



狙いを定めて～えいっ！

一同盛り上がりを見せたことに加え、居住者の皆様の温かく和やかな拍手に包まれ、赤鬼と青鬼は退散していききました。鬼役を演じた職員二人にも感謝したいと思います。さて、今回は二月恒例の節分行事の様子を紹介しました。季節ものの行事は皆さまに馴染み深く感じただけのため、我々職員も居住者の方々と同じ気持ちで行事を楽しむことが出来ます。

古くから節分の豆まきは、病気や厄災を鬼に見立ててそれらの邪気を追い払うことで一年の無病息災を願ったとされています。新生の園でも居住者の皆様と共に、平穏で心地よい春暖を迎えられますよう願っております。

(似鳥七晟)

健康型有料老人ホーム マリヤ館

初詣

二〇二五年一月三十一日、バルナバ館とマリヤ館と合同で、渋川市にある五徳寺水沢観世音・洋風旅館びのんのレストラン夢味亭に行ってみました。

水沢観世音はおよそ一三〇〇年前、推古天皇・持統天皇の勅願により、高麗の高僧恵灌僧正によって開基されました。また、五徳山水澤寺の名称は、推古天皇の御宸筆(ごしんぴつ)の額名によるものです。

ご本尊は国司高野辺家成公の三女伊香保姫のご持仏であったと伝わる十一面千手観世音菩薩。霊験あらたかなること、特に七難即滅七福即生のご利益が顕著とのことでした。

当日は、晴天に恵まれ、居住者の皆さま方は初詣とお食事を存分に楽しまれていました。



水沢観世音にて

節分

今年は、二月二日が節分でした。例年は、年男年女の方から参加の呼びかけをしていましたが、今回は最初から年男年女に関係なく呼びかけをしました。今まで鬼を引き受けてくださったいた居住者の方も豆をまく方に参加してください、例年になく盛り上がった節分でした。



節分

梅香ハイツマリヤ館では、季節の行事・各種イベントを企画し、楽しんで頂くだけでなく、終活と一緒に考えるなど、居住者の皆様の健康と幸せを考え、寄り添って歩んでいける運営を今年も行っています。

(原孝洋)

介護付有料老人ホーム
穩和の園・桜の園

そうだ。喫茶店に行こう。

当日は、朝から雪の降る、足元の悪い日でしたが、午前中の内に雨となり、お昼前には晴れて道は大丈夫。予定通りお出かけです。

「最近、お出かけしてないわ。」という声も聞こえる方々と一緒にドライブ。通勤時には勘弁してよ。という雪ですが、お天気になるといつもとは違う雪景色も乙でございます。

お店についたら、メニューを眺めて何にするかな。どうしよう。とうれしい迷い。季節物ですから、イチゴパフェの主張が強く、勧められるままにご注文。そんなにお腹が空いてないよ。と言いつつ、甘い物は別腹です。あら、甘い。おいしい。と思わず頬が緩んでしまいます。時間いっぱい、おしゃべりしながら、午後のひと時をご一緒しました。



甘くて頬がとろけちゃう

観梅ツアー

お花の時期と予定調整は難しい。

とまあ、時期を狙って予定をずらした観梅ツアー。梅まつりは前日までとニアミスもあり、バリアフリートレイルが閉鎖しているトラブルもありつつでしたが、そのかいあってか道中、公園と、満開の梅たちが出迎えてくれました。匂いにつられたおやきをほうばり、ひと時を過ごしつつも、居住者、職員共に花粉症だよと目や鼻がぐずぐずしてくる次第で、あとは車中からと梅園を一周しながら帰路につきました。（中澤一夫）



白梅、紅梅、桃花など春の訪れを感じる一日でした。

介護付有料老人ホーム
恵 泉 園

春うらら

今年の冬は前年より寒くなると気象予報士がテレビで報道していました。実際に新生会でも雪に見舞われて、何度か雪かきを行いました。三月に入り気温がぐんぐんと上がり、二〇度を超える日もあって、少し早い春の訪れを感じました。そんな気候もあってか、開花の時をまだかまだかと待ちわびていた梅が一斉に咲き誇りました。

恵泉園ではお馴染みとなった箕郷梅林にて観梅ツアーを行いました。連日二〇度近い日が続いていたので、ちらほらと梅が咲いていたところもあり心配をしていましたが、八分咲きでちょうどいい時期に訪れることが出来ました。



梅並木

暖かな気温と梅の優しい甘い香りに誘われて、我々の他にも多くのお客様が見えており、久しぶりに外の賑やかな雰囲気味わえた一行は、馥郁たる香りを惜しみつつも箕郷梅林を後にしました。



全員集合

昨年養護老人ホームから有料老人ホームに事業転換を図った恵泉園の歩み出しは一〇人でした。一年経って顔ぶれも変わり、おかげさまで今では二〇人の方にご入居いただいております。変わったこと、変わらなければいけないことも多々ありましたが、一人一人の居住者に実直に向き合う姿勢は変わりません。新年度になり、新たな取り組みも考えております。恵泉園には今、新しい風が吹きつつあります。

（新井溪司）

軽費老人ホーム
バルナバ館

梅香ハイツ 初詣

一月三十一日、梅香ハイツの初詣に出かけました。県内の初詣では来場者数が最も多いという水澤観世音です。一三〇〇年もの長い歴史を刻んできた寺院だそうで、伊香保姫のご持仏であったと伝わる一面千手観音菩薩が本堂に祀られています。皆様それぞれ、本堂で手を合わせてお参りをしたり、御朱印長をお願いしたり、古いお守りなどを納めたりしていました。



水沢観音本堂にて

昼食は伊香保温泉・松本楼内にある「夢見亭」。大正ロマンの雰囲気漂うおしゃれな店内で、お肉やお魚、パスタのランチを美味しくいただきました。

食事の後、居住者の方のご希望で

清芳亭にて温泉まんじゅう、その先にある食の駅では水澤うどんなどを購入。そして最後に向かったのはつるや吉岡店。皆様思う存分にお買い物を楽しまれました。

今回参加の方より、「マリヤ館・バルナバ館合同のお出かけはとてもよかったです。施設内にと限られた方とお話することが多いが、バスの中や出先で会話をしたことがなかった方達とお話できて楽しかったです。また一緒にお出かけしたい。」とのことでした。

二〇二五年は巳年（へび年）。たくましい生命力があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、医療、治療、再生のシンボルとされているそうです。皆様、今年も健康に過ごせますように。

(二場寿子)



いただきます!!

軽費老人ホームA型
榛名春光園

初詣

今回の初詣は「進雄神社」です。高崎の東に位置し園から約四〇分のバス旅です。当初は一月中に行く予定でしたが、コロナ感染の影響で二月に入ってから初詣となりました。当日は総勢三八人の大所帯、車三台に便乗しいざ出発、車窓を楽しみながら神社に到着。まずは皆で記念撮影。思った以上に荘厳なお社造りで感激!



進雄神社にて

参道周りにはかわいらしいドングリや落ち葉で作った飾りなど、手が行き届いています。

神主さんや巫女さんは笑顔で対応していただき安心してお参りできました。神社には珍しい真っ白な孔雀

がいることで有名です。仲良くつがいで遊んでいましたが羽は広げてもらえず残念!



美しい真っ白な孔雀です

昼食は「とうふ料理の松邑」で、出来立ての湯葉を使ったゆば御膳をいただき、ゆばのとろける舌触りが心地よかったです。

昼食もすませ次はお楽しみのお買い物です。「お漬物のたむらや」で試食しながら漬物を見て回り甘酒や味噌ソフトを楽しみました。さらにお隣の「ツルヤ前橋」長野のお焼きや豊富なジャム、丸山珈琲、特徴のある品ぞろえが魅力でついついいっぱい買ってしまいました。帰園も午後三時過ぎで余裕があり、充実した一日でした。

(佐藤誠)

特別養護老人ホーム
榛名憩の園

節分

令和七年二月二日、園内行事で節分を行いました。例年ならば二月三日が節分の日だと思っていました。今年が、今年地球の周期の影響で節分が一日早くなった（節分が二月三日でなくなるのは三十七年ぶり）とのことで間違えるところでした。危うく鬼を迎え入れるところでしたね。

余談はさておき、今年も皆さん楽しんでお菓子を食べたり、節分の歌を元気よく歌って賑やかでした。途中から鬼も繰り出し、今回は豆ではなくお菓子を使ったので、だいぶ痛かったです。毎年若者が主体となっていて鬼役に適任されるそうですが、普段やらないことをするのは恥ずかしさの反面、新鮮で良いことですね。福もしつかり入ってきた所で今年も皆さん心健やかに過ごせそうですね！



福を呼び込む笑顔！

ひな祭り

令和七年三月三日、ひな祭りを行いました。とても温かい雰囲気園内を包み込み、居住者ほか、私たち職員皆で心地良さを共感しました。手作りの甘酒や桜餅を囲んで、雛形の前で無邪気に笑う女性たち（男性陣も含む）の姿は、まるで子供時代に時間を巻き戻したかのようです。こちらまで楽しくなってしまう。

年齢を重ねても、あの頃の楽しさや無邪気さは色あせることなく心に残っていると思います。そして、ひな祭りの様な行事や各種イベントを通して昔の思い出に浸ったり、皆で楽しさを共有することの大切さや心の中でとても大切な意味を持っていると改めて感じました。郷愁に浸りながら、そうした感情を大切にすることが、日々の生活の中で心の安らぎをもたらしてくれるのではないのでしょうか。



ひな祭りに男性!?

（小林亮太）

特別養護老人ホーム
誠の園

春の訪れを感じて

春の兆しを感じる穏やかな日、観梅ツアーに出かけました。朝から「今日はいい天気でよかった」「どんな梅が咲いているかしら」と、皆さんの期待が高まります。今回は三班に分かれての総勢二五名の居住者と十数名の職員で出かけました。群馬と言えば梅の名産地、観梅ツアーは人気がある事が伺えます。車内では昔の花見の思い出話や梅の名所の話で盛り上がり、和やかな雰囲気の中で目的地へ向かいました。

行き先は群馬三大梅林のひとつである「秋間梅林」。約三万五千の梅が咲き誇る関東地方でも有数の梅の名所です。その歴史は江戸時代まで遡り、先人たちが守ってきた伝統の一部を垣間見る事ができます。

到着すると、一面に広がる色とりどりの梅が迎えてくれました。白梅、紅梅、ピンク色のしだれ梅が咲き誇り、風が吹くたびにふわりと甘い香りが漂います。「まあ、きれいなえ」「昔、庭に梅の木があったのを思い出すわ」と、皆さんの目が輝いていました。中には「この梅は蠟梅、この梅は梅郷、この梅は…」と、ガイドさんもびつくりするような解説

をして下さる方もいらっしゃいます。梅の木を見ただけで品種を当てる姿はまさに梅博士ですね。また、今の秋間梅林には至る所にフォトスポットがあり、老若男女問わず多くの方がスマホやカメラを片手に写真を撮っていました。

ひとしきり梅を楽しんだ後は、茶屋でおしるこを温かい梅ジュース「梅ネード」をいただきました。「外で食べると格別ね」「久しぶりのお出かけで嬉しい」と、皆さんの笑顔があふれます。中には「次は桜の季節にも出かけたいね」と、早くも次のイベントを楽しみにする声もありました。帰りの車では、「楽しかったですね」「また来年も行きたい」と満足そうな皆さん。満開の梅の美しさとともに、心も春の陽だまりのように温かくなった一日でした。



春の訪れを感じて



（佐野仁久）

特別養護老人ホーム
エンジエルホーム

春の観梅&ランチツアー

春と言えば梅見！ということ、三月一二日、居住者五名と職員五名の総勢一〇名で、ぐんま三大梅林に数えられる、安中市の秋間梅林に出かけてきました。

梅見の前にはまずはランチと、みんな大好きなファミリールレストラン、ココスに行きました。いろいろなメニューを選ぶのも楽しいひとりで、ランチメニューから、それぞれ好みのパスタやハンバーグ、ガパオライスを注文しました。働き者の配膳ロボット、ケティボットくんが音楽にのって運んできてくれたお料理は、普段のホームの食事よりかなりボリュームがあります。皆さま「おいしい」と、残さず嬉しそうに召し上がりました。さらに食後には、別腹に納まるデザートまで注文し、それも残さずいただきました。



かなりおいしいモンブラン



梅の花の前でダブルピース

お店を出ると、秋間梅林に向かいます。下見をせずに出かけたので、スマホのナビを見ていても少し迷ってしまいました。駐車の案内板をじっくりと眺めて、頂上を目指すことにしました。やっと到着した秋間梅林は、白やピンクの梅の花が咲き誇り、ちょうど見ごろで、梅の香りも漂ってきます。「きれいだねえ」「いいかおりだねえ」などと口々に言いながら、みんな笑顔で梅見を楽しみます。秋間の斜面を車椅子で進むのは、職員にとってなかなかの苦労ですが、居住者の皆さまのニコニコ笑顔を見れば、疲れもなくなります。記念写真を撮り、「また来年末ましようね」と約束して、帰途につきました。

(吉川幸二郎)

HALC自然学校

新春特別企画&お出かけ自然体験
新春特別企画として一月一七日に第一弾、高崎市かみつけの里博物館へバス乗車二〇分で到着。午前の部には会員一四名とスタッフ四名、午後の部は会員八名とスタッフ五名の参加があり、榛名山東南麓で出土した五世紀後半の人や動物の埴輪等が展示されていて古の人達の心の豊かさに思いを馳せました。



八幡塚古墳内での説明



ろうばいの郷と節分草

新春特別企画第二弾は二月七日に安中市松井田町にある「ろうばいの郷」へ向かいました。上州名物からつ風が頬を突く寒さの中、会員の方は午前が二二名、午後は一五名、スタッフは各六名と盛況でした。時間に余裕ができたので雲門寺（松井田町）に立ち寄り、今しかみることのできない節分草を鑑賞しました。



甘楽町国指定名勝楽山園



富岡製糸場ガイドツアー

三月は「甘楽郡城下町小幡と富岡製糸場」を巡る旅。三月七日は会員とスタッフ合計二一名。三月一二日は合計二三名が参加。城下町小幡をガイドさんと武家屋敷を散策。矢羽積の城壁に樹齢四五〇年のムクロジの樹が町を守ります。江戸時代初期に織田氏によって造られた大名庭園「国指定名勝楽山園」ではお抹茶を堪能した方もおられました。
午後は世界遺産の富岡製糸場。木骨煉瓦造の建物の土台石は甘楽町小幡の連石山から石材が切り出され「御用石」と呼ばれました。
フランス人の指導のもと西洋の先進技術を導入した世界最大規模の器械製糸工場に近代日本の夜明けを感じる時となりました。
(稲垣仁)

ホームヘルプステーション
フィリアほほえみ

ペットちゃんたちがもたらす効果
皆様はペットを飼っていらっしゃる
いますか？私たちヘルパーは、利用
者様の家族の一員として大切に飼わ
れているペットちゃんたちとたくさ
ん出会って来ました。

『愛犬クマちゃんの場合』

利用者様Hさん曰く「他のお客さ
んが来ると吠えるけど、ヘルパーさ
んは覚えたみたいで吠えないね。」
とのこと。利用者Hさんを見守る仲
間として認められたのでしょうか。
『愛猫ミーちゃんの場合』

利用者様Sさん宅のミーちゃん
は、ものすごく人懐っこく、Sさん
とヘルパーが話をしてしていると、こた
つから出てきてヘルパーの横にちょ
こんと座り、まるで会話に参加して
いるかの様です。また、ヘルパーが
掃除していても、傍にぴったりくっ
ついてくるので、まるで一緒に掃除
をしているような感覚になります。

さて、訪問先での様子を紹介させ
ていただきましたが、ペットを飼う
ことにより、様々な健康効果が得ら
れるそうです。例えば：

- ① 幸せホルモンが分泌される。
- ② 独居生活の中で話し相手が出来る。
- ③ 規則正しい生活が送れる。

ミーちゃん（左）
Hさんとクマちゃん（右）



利用者様たちの
可愛いペットちゃんたち

- ④ 記憶力が向上する。
- ⑤ 五感が刺激される。 などを。

快適な在宅生活を送るためには、
福祉用具を使用するなど、物理的な
支援もたくさんありますが、ペット
たちの愛しい表情を見ながらコミュ
ニケーションをとる、またその癒し
や絆が、ご利用者様にとって生きる
原動力になっているのだと思いま
す。ヘルパーである私たちも、命の
尊さを感じ、日々穏やかに生活でき
ることに感謝しつつ、ペットちゃん
たちと生きるご利用者様の生活を、
今後も微力ながら支援させていただ
きたいと思えます。
(清水郁恵)

新生会診療所

“ぎっくり〇〇”に“用心”

冬のあいだは寒さによる体の冷え
や怠さ、肩こりの訴えをよく聞いま
す。しかし少しずつ暖かくなり、陽
気と共に身も心も軽くなった気がし
て、「何か運動を始めようかな」「ち
よつと遠出して観光してこようかな
♪」なんて、ワクワクするような計
画を立てている方もいらっしゃるか
もしれませんね。

でもちよつと待った！

実は身体はまだまだ準備不足だっ
たりするので。痛い目にあう前に、
しつかり準備しましょう！
というお話を、新生会診療所リハビ
リテーション課がお送りします。

最近“春腰痛”という言葉を見聞
きすることが多くなった気がしませ
んか。腰痛という症状には変わりな
いのですが、春先は腰痛を患う人が
倍増します。その要因は“寒暖差”
です。冬の寒さが血行不良を引き起
こし、筋肉を硬くします。外で運動
するよりもこたつでゴロゴロ、スマ
ホでゲーム、なんて生活を送ってい
ると筋力が落ちます。そのうち気温
が上がって薄着になり、活動量が増え
ます。そして突然腰に“ギクツ”と
衝撃が走ります。それが“春腰痛”

別名“ぎっくり腰”です。身体を動
かす準備が整っていないうちに動く
ため痛みを引き起こしてしまうので
す。さらに腰だけでなく“ぎっくり
首”や“ぎっくり背中”などという
ものもあります。私が学生の頃には
習ったことも聞いたこともありませ
んでしたが、今では様々な“ぎっく
り”があるので要注意ですね。その
他に気圧や自律神経の不調、花粉症
によるくしゃみなども原因として関
係があるようです。

対策は、急に動かない、自分の体
力筋力を過信しない、適温のお風呂
に浸かって温まる、ストレッチをし
て柔軟性を保つ。簡単なことですが、
意外と忘れがち。体の硬い人は特に、
春だけではなく日頃からストレッチ
を行いたいところです。



(→ゆっくり体を屈めてお尻と太
腿の裏を伸ばします。腰痛には股関
節周りの柔軟性が重要です。)

ストレッチについて具体的には、
たい方や方法の確認をしたい方は、
新生会診療所にお越しください。

(小野沢美智子)

こかげ

二〇二五年度睦会

睦会会員の皆様より、今年度も睦会会長として務めさせていただく事ができました。副会長の二名も同様に会員の皆様より選んでいただく事ができました。新たな監査の二人を迎えて今年度の活動が始まります。

睦会が大切にしてきた会員相互の親睦優和を図る事を前提としつつ、今年度は会員個人の生活の質の向上・健康増進・文化教養の向上を目標として取り組んでいきます。私たち睦会役員が活動を行えるのも、ひとえに会員の皆様や活動に携わってくださる方々の支えあってこそと昨年度の活動を通じて改めて実感しました。支えてくださっているお一人おひとりに

感謝の気持ちを忘れずに、日々励んで参ります。今年度の睦会もどうぞよろしくお願いたします。



2025年度睦会 会長・副会長

新 生 会 人 紹 介

エンジェルホーム



澁澤 滯 (シブサワ ミオ) 22

- ①群馬県藤岡市
- ②ケアワーカー
- ③筋トレ・身体を動かすこと
- ④ジャルジャル
- ⑤服代に一万円以上つぎこむこと
- ⑥たんぼぼ

新生の園



波平 鈴乃 (ナミヒラ スズノ) 36

- ①沖縄県うるま市
- ②ケアワーカー
- ③泡盛を飲むこと
- ④まだいけません…
- ⑤人との交流です。
- ⑥「なんくるないさ〜」

新生会ウエルカムセンター



角川 美奈子 (カドカワ ミナコ) 61

- ①群馬県安中市
- ②ケアワーカー
- ③ドライブ
- ④特にいないです
- ⑤好きな物を食べることに
- ⑥花

梁瀬 太我 (ヤナセ タイガ) 27



- ①群馬県安中市
- ②調理員
- ③ゴルフ
- ④なかやまきんに君
- ⑤回転ずしに行く
- ⑥マイペース

- ①出身地
- ②職種
- ③趣味・特技
- ④好きな有名人
- ⑤自分にとって一番の贅沢は
- ⑥好きな言葉

誠の園



井上 虎太郎 (イノウエ コタロウ) 18

- ①埼玉県神川町
- ②ケアワーカー
- ③体を動かすこと
- ④なし
- ⑤夜ふかし
- ⑥「記念日」

今回のご紹介は穏和の園のケンティこと中居憲斗さんです。青森が生んだケンティは、なぜか寒がり、そのせいかどうかは分かりませんが、縁あって群馬に進学、卒業後は、新生会へ就職して一〇年目を迎えます。スラっと高身長。眼鏡キラリ



穏和の園 ケアワーカー 中居 憲斗さん

知的クールキャラ。ではなく、ちよつとおとぼけ愛嬌満載。優しい語り口に、おだやか笑顔でお年寄り達の支持を集めてやまない人気者。優しい人柄は、身内にも同様で弟、妹のことも気にかける頼れるお兄ちゃんです。

もうひとりの私 130

コーヒー大好きカフェイン中毒。バリスタ級に知識も豊富。豆選びに挽き方、煎れ方。こだわり全開。持ち前の絵の才能発揮とラテアートにも挑戦。専用のエスプレッソマシーンを購入したとかしないとか。

意外なところでは「ちいかわ」のうさぎ好き。誰の影響かは知りませんが、「かわいい」も押さえて抜かりがありません。

みんなに聞き込みしても、真面目で面倒見よく、優しいの第一声。仕事ぶりはそつなく、信頼感抜群なので、なかなかクセ強部分が出てきません。隠しているのか、根っからの真面目キャラか。その真偽は定かじゃありませんが、時にゆるく遊びの部分を出して Sexy Zone を広げたファンサービスにも期待です。



・手塚 美月 (てつか みつき) ちゃん
令和7年1月4日生まれ
(高齢者あんしんセンター新生会)

手塚 勝洋さん
手塚 友希さん
第2子)



榛名春光園
からさわ きよこ
唐澤喜代子さん
(九七歳)



木曾の奈良井宿にて、町医者の家系の長女としてお生まれになり、お母様から一人で何でも工夫をして生きるように育てられました。

結婚により転機が訪れます。長野市の松代にある『現金屋』というお店に嫁がれました。現在まで四〇〇年続いている老舗のスーパーです。かつては松代城の御用掛として、真田侯爵に食材を納めていたそうです。その頃の思い出として、役場の竣工式に、六五〇個の折り詰め弁当を準備されたことを挙げられました。長野県内は食材不足だったため、東京の築地に買い出しへ行きました。問屋へ行き、長野にはない食材をそろえ、乾物を中心としたお弁当を完成させました。唐澤さんの奔走の甲斐があり、老若男女に大好評のお弁当だったそうです。その後は、様々なところから注文が入るようになり、注目を集めるスーパーへ発展しました。新店舗を開店した際には、県内初の自動ドアを設置されたそうです。

そんな根っからの商人として生活してこられた唐澤さんと新生会のご縁は、お兄様ご夫妻が春光園へご入居されたこと、友の会との繋がりでご主人が新生の園へ入居されたことにあります。

今の春光園での生活をお聞きすると「楽しく、自由があり、掃除が行き届いているところがお気に入り。様々なイベントがあり、さみしい気持ちをしたことがない。」とにっこり。行事に積極的に参加される姿をよく拝見致します。商人としての視点から、新生会の未来を考え、様々なご提案を下される頼もしい方です。

大切にされている想いがあります。「人はみんな違うのは当然のこと。その中で人にはやさしく、誰とでも話し合って、楽しい雰囲気、笑いのある生活を皆さんとこれからも作っていききたい」と話されます。

一昨年の節分では最年長の年女として個性的な衣装に身をまとい、頭には「風車」を回すというお茶目な一面もあり、参加者を笑いで包んでくださったことも素敵な思い出です。そして今日も、居住者を居室に招き、秘密の茶話会をしていることでしょう。いつでも他者を温かく迎え入れ、人の輪の中心にいらっしゃる唐澤さん。これからも唐澤さんらしく、春光園での生活を思う存分に楽しんでいただけたらと思います。



特定非営利活動法人
群馬福祉会 理事長



予防医療に興味をお持ちだった濱村さんは、元は県内の製薬会社と共同でサプリメントや栄養補助食品を企画、販売するメーカーに約二五年間お勤めになられていました。

六年前に悪性リンパ腫で実のお母様を七二歳で亡くされました。もつと親孝行をしたかったという思いを抱えつつ、予防医療や健康への意識だけではどうにもならないことがあると見方が変わられます。

お母様は晩年、高齢者施設のボランティア活動を意欲的になされていたため、ご葬儀には活動とともにされていた方が多く弔問に來られました。それを機に、ボランティアや福祉の仕事に魅力を感じ、お母様の想いを継承したいというお考えから、転職を決断されました。

その後、コロナ禍を経て、当時の『群馬福祉会』の理事長から事業を引き継がれることになりました。支援を必要とする方の買い物や、受診同

濱村 廣治さん

行等を主とする「高齢者の生活支援サービス」と、施設への入居や退居、終活・葬送の対応までを主とする、「代理身元引受人・保証人サービス」があります。関係職種と連携し、最後まで責任を持って支援する後見人サービスが業務の中心となっています。近年、家族や親族の在り方が多様化し、契約者は当初の数倍に増えたそうです。

群馬福祉会の利点は、大都市圏にあるような高額な費用を要する大手とは異なり、地域密着で格安な点が挙げられます。二四時間体制で緊急時に備えており、利用者さんとの関係性を考慮しつつ、一二人の職員で運営されています。

最後に、お仕事に対する思いを伺うと「困っている方との関係を築き、死後の不安をなくし、安心して天国へ旅立てるようお手伝いする事が何よりもやりたいです。」と真っ直ぐな眼差しで話されました。いつも丁寧で誠実な濱村さん、これからも新生会をよろしく願います。



ヒメシャガ



シラン



ヤマシャクヤク



フジ



ポピー

春光園の出窓から・・・

「春の草花」

春の光に誘われて、春光園の廊下を歩いていると、出窓には居住されている皆様の愛用品やお手製の作品が個性豊かに並び、園内の廊下を華やかに彩っています。

今回は、その中でも「アクリル画」をご自身の趣味として描かれ、季節の草花を飾られている方の作品をご紹介します。

思わず足を止めてしまう素敵な作品を皆様にもご覧いただければ幸いです。

文
芸

春光ギャラリー

詩 歌



ケアに生きる
(156回)
エンジェルホーム
ソーシャルワーカー
友松 孝文

今年はお彼岸の時期に白い帽子を被った浅間山と白とピンクの梅を遠くに眺めながら職場へと向かいました。
ご縁あって新生会に就職させて頂き、お陰様で約二十年が経ちました。これまで数多くのご

入居者との出会いとお別れがありました。その一つ一つがケアの糧となっています。
新生会には「去ることを希望されない限り最後までお世話をさせていただきます」という誓いの言葉がありますが、入職後、

一人のご入居者からある言葉を頂きました。「ここはいい所で、安心して生活出来ている。お仲間に入って貰えたら嬉しい」。最後まで安心して暮らせる場所である為のケアの本質と信仰について改めて考える契機となりました。

新生会のホームを終の棲家として選んで下さったお一人お一人が明るく、生き生きと輝き、こころ豊に暮らし、ご家族も安心した生活が送れるよう、すべての施設が協働で支え合っています。新生会の創業の精神を繋いで来て下さった諸先輩、天国で見守る仲間達に背中を押して貰いながら、今日という限りある時間、目の前にいらつしやるお一人に寄り添い、ご縁に感謝し、これからもお世話をさせて頂きたいと思えます。

愛犬(その)を偲びて① 笠井 昭次

そのチャンと共に歩みし散歩道
今日も小鳥の華やかに啼く

おシッコしきも自慢げに振り返る
散歩楽しむそのチャン愛らし

背を屈め後脚踏ん張りウンチせり
「そのチャン、ガンバ」と覚えず叫びし

撫でられて四肢を延ばしつ喜びし
あのそのチャンはどこに消えしか

オーサム

風呂の中居眠しては仰天す
私の創作活動夢の中

沢山の介護施設の誘いあり
若き日の階段登降まるやかさ
一人者何かにつけて落着かず

蠟梅やマンサク・ミモザ我のセーター
春待つ心は 黄色の中で

残月を独り占めして朝の散歩す
帰りの道は 朝日に向かつて

寒空に銀に輝く蕾たち
生命きらめく 白木蓮よ

福田 紘晴

春よ春歓喜の声かホーホケキヨ
春光の万葉のさくらや笑みの園

新生 日誌

（1月）

6日

新年初朝礼
はるな自然体験クラブ お散

7日

歩自然観察会 午前の部…3
名参加、午後の部…5名参加
新生会新年会（ホテルメト
ロポリタン高崎 87名参加）

17日

はるな自然体験クラブ お散
歩自然観察会 午前の部…7
名参加、午後の部…1名参加
厚生労働省「福祉用具・介護
ロボット実用化支援事業」介
護ロボット全国フォーラムT
OC有明4Fコンベンション
ホール 4名参加

21日

はるな自然体験クラブ お散
歩自然観察会 午前の部…7
名参加、午後の部…1名参加
厚生労働省「福祉用具・介護
ロボット実用化支援事業」介
護ロボット全国フォーラムT
OC有明4Fコンベンション
ホール 4名参加

31日

はるな自然体験クラブ お散
歩自然観察会 午前の部…6
名参加、午後の部…4名参加

7日

はるな自然体験クラブ 新春
特別企画 短時間お出かけ自
然体験（ろうばいの郷第2弾）
午前の部…22名参加、午後の
部…15名参加

14日

はるな自然体験クラブ お散
歩自然観察会 午前の部…6
名参加、午後の部…7名参加
榛名荘病院との医療連携会議
西毛ブロック生活相談員研修

19日

はるな自然体験クラブ 新春
特別企画 短時間お出かけ自
然体験（ろうばいの郷第2弾）
午前の部…22名参加、午後の
部…15名参加

21日

はるな自然体験クラブ お散
歩自然観察会 午前の部…7
名参加、午後の部…2名参加
睦会ポウリング大会

25日

はるな自然体験クラブ お散
歩自然観察会 午後の部5名
参加

27日

群馬県地域福祉課主催認知症
介護フオローアップ研修（オ
ンライン研修 1名参加）
令和6年度群馬県認定調査員
現任研修ZOOM 3名受講

3日

群馬医療福祉大学医療福祉業
界研究セミナー（Gメッセ群
馬 3名参加）

6日

2024年度睦会第2回総会
障害者雇用納付金制度事務説

3日

群馬医療福祉大学医療福祉業
界研究セミナー（Gメッセ群
馬 3名参加）

6日

2024年度睦会第2回総会
障害者雇用納付金制度事務説

7日

はるな自然体験クラブ お出
かけ自然体験（甘楽町小幡&
富岡製糸場）15名参加

11日

職員採用試験

12日

はるな自然体験クラブ お出
かけ自然体験（甘楽町小幡&
富岡製糸場）17名参加

19日

春の墓参会 51名参列

21日

はるな自然体験クラブ お散
歩自然観察会 午前の部…10
名参加、午後の部…2名参加

25日

新任職員研修会

27日

聖路加国際大学施設訪問 10
名来会

7日

職員採用試験

11日

職員採用試験

12日

はるな自然体験クラブ お出
かけ自然体験（甘楽町小幡&
富岡製糸場）17名参加

19日

春の墓参会 51名参列

21日

はるな自然体験クラブ お散
歩自然観察会 午前の部…10
名参加、午後の部…2名参加

25日

新任職員研修会

27日

聖路加国際大学施設訪問 10
名来会

編集後記

皆さんは「ワンチーム」というフ
レーズを覚えていますか？ラグビー
ワールドカップが自国開催された際
日本代表は大活躍。流行語大賞を受
賞した言葉です。試合はまさに死闘。
様々な国の出身者が日本代表の仲間
として個性を活かし、団結してプ
レーをする姿に多くの日本人が魅了
されました。この言葉には、①責任
（自分のプレーに責任を持つ）②信頼
（仲間を信じる）の意味もあります。
新生会では、様々な職種の職員が
集い、個性豊かな職員が働いていま
す。多様な価値観や想いを出し合い
ながら、居住者お一人おひとりに合
わせた最善のケアに努めています。
その姿は、まさにプロフェッショナ
ルであり日本代表いや「福祉代表」
と言っても過言ではないと考えま
す。居住者と職員が新生会プライド
を持つ「日本一」魅力的で幸せな
法人を、まさにワンチームで作りに
上げていきましょう。（長坂直哉）

支援席外

—新生会後援会便り—
さわやかな季節を迎えました。皆様から
温かいご支援を寄せていただき心より感謝
申し上げます。
新しい年度を迎え、今年度も新生会の諸
事業に後援会を通して皆様のご協力ご支援
をお願い申し上げます。

HALCセンター建設のための特別募金累計
16,914,128円（2025年3月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

- 個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、
毎年ご寄付して下さる方。
○法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、
毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や用途につきましては小冊子「感謝録」
にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594
加入者名 新生会後援会
銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金 0075469
名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付く
ださる際にその旨を申し出てください。社会福祉
法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ <http://www.sinseikai.org/>
E-mail human-office@sinseikai.org

新生 第48巻 春号
発行日 令和七年四月二〇日
編集兼 社会福祉法人新生会
発行人 原慶子
〒370-3347 群馬県高崎市
中室田町五九八三
電話 〇二七(三七四)一五一一
表紙の写真
県道沿いの桜
榛名春光園 松村康さん撮影